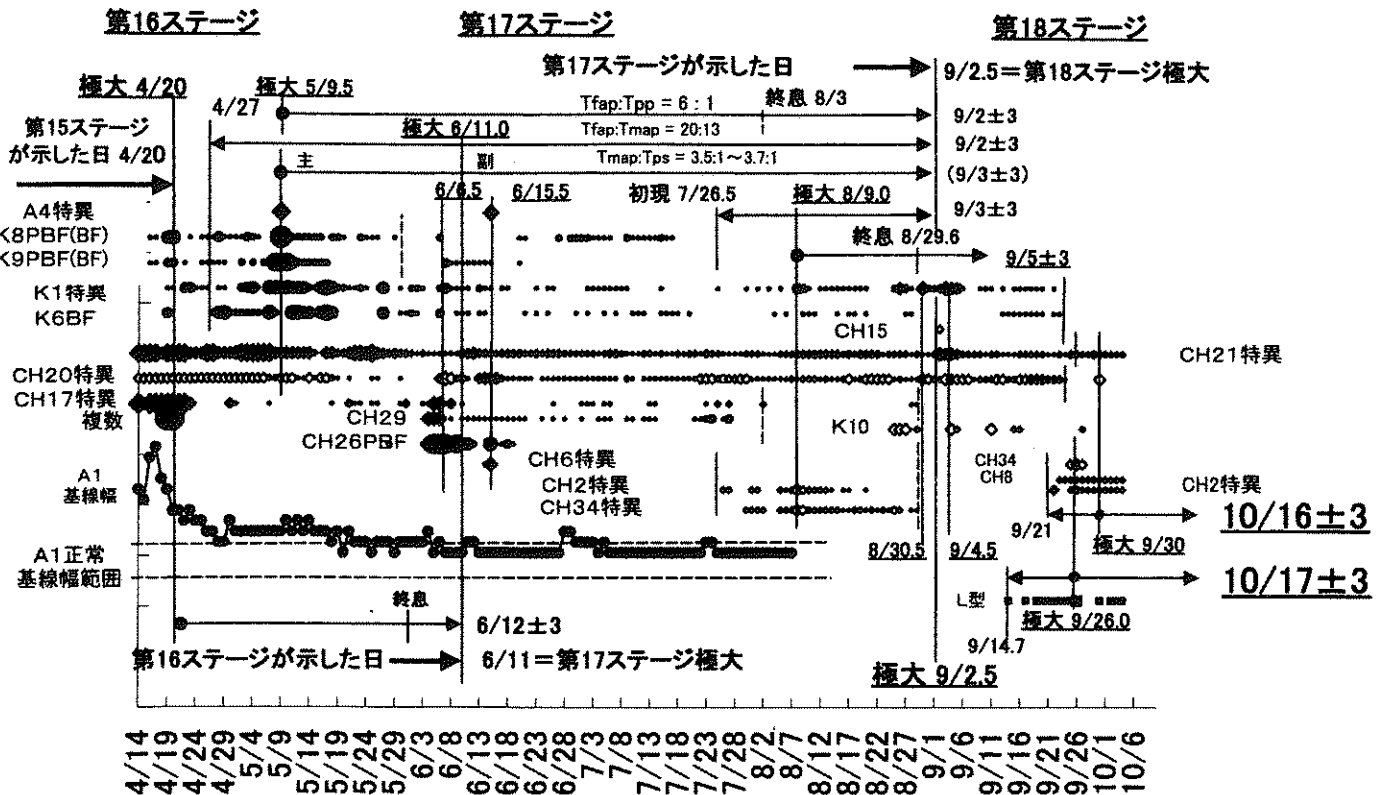


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆続報 第18ステージ再検討

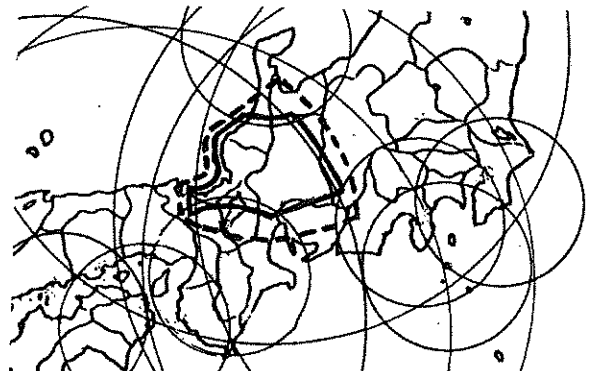


長期継続特殊前兆No.1778は、現在第18ステージ認識です。第17ステージが示した 9/2±に当たる 9/2.5に極大が観測されましたが、9/2.5極大は次を示す働きをしていない様です。
現在、9/2.5以降の明確な極大は、報告のとおり、9/26です。その他に9/30にも小ピークが見えることも報告しております。糸状態特異が出現しているCH02は、9/21に最初に出現し、9/25からは連日糸状態特異が継続しています。本日現在もCH02は糸状態特異が継続しています。静穏化したCH20は9/30未明を中心に約22時間特異状態が出現しました。このことから、9/21初現、9/30極大で計算しますと、下記のとおりとなります。
9/21初現～9/30極大でTfap:Tmap=20:13 経験則使用⇒10月16日
また別に本年4/17から出現した火山帯近傍地殻地震前兆がありますが、前半は 9/3±数日の時期を群発地震経験則で示

されます。本州中部領域で八ヶ岳南麓天文台の緯度より北側領域での活動の可能性が示唆され、誤差範囲内である8/30±より富山県東部立山での顕著な群発地震が対応であった可能性が考えられます。

但し、9/14夕刻から火山前兆が良好に出現する八ヶ岳のCH26にL型火山帯近傍活動前兆が出現し、9/26.0に極大認識できます。本日現在も出現していることから、これからの活動の可能性が示唆されます。9/14.7を初現、9/30を極大とし、通常の地震前兆と同様なTfap:Tmap=20:13 経験則を使用しますと9/14.7初現～9/26極大Tfap:Tmap=20:13 経験則使用⇒10月17日が計算されます。10/5迄に前兆終息がなければ 9/5±3 の誤差を越えます。現状、数日内の前兆終息は考え難いため、10月12日～13日頃の終息があるか否か確認したいと考えます。

- ◆推定領域：右図 点線領域内付近＝大枠推定領域
太線領域内付近＝可能性考え易い推定域
(※火山帯にある程度近い領域の可能性有)
- ◆推定規模：M7.8±0.5
- ◆推定時期：前兆終息を確認後計算
現状考え易い時期＝10月17日±3
(上の場合10月12～13日頃に前兆終息確認必要)
- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻地震
- ◇推定発生時刻：午前09時±1(又は午後06時±3)
(但し前震がある場合は無効)



※その他、別大型地震が推定される前兆は観測されておりません。